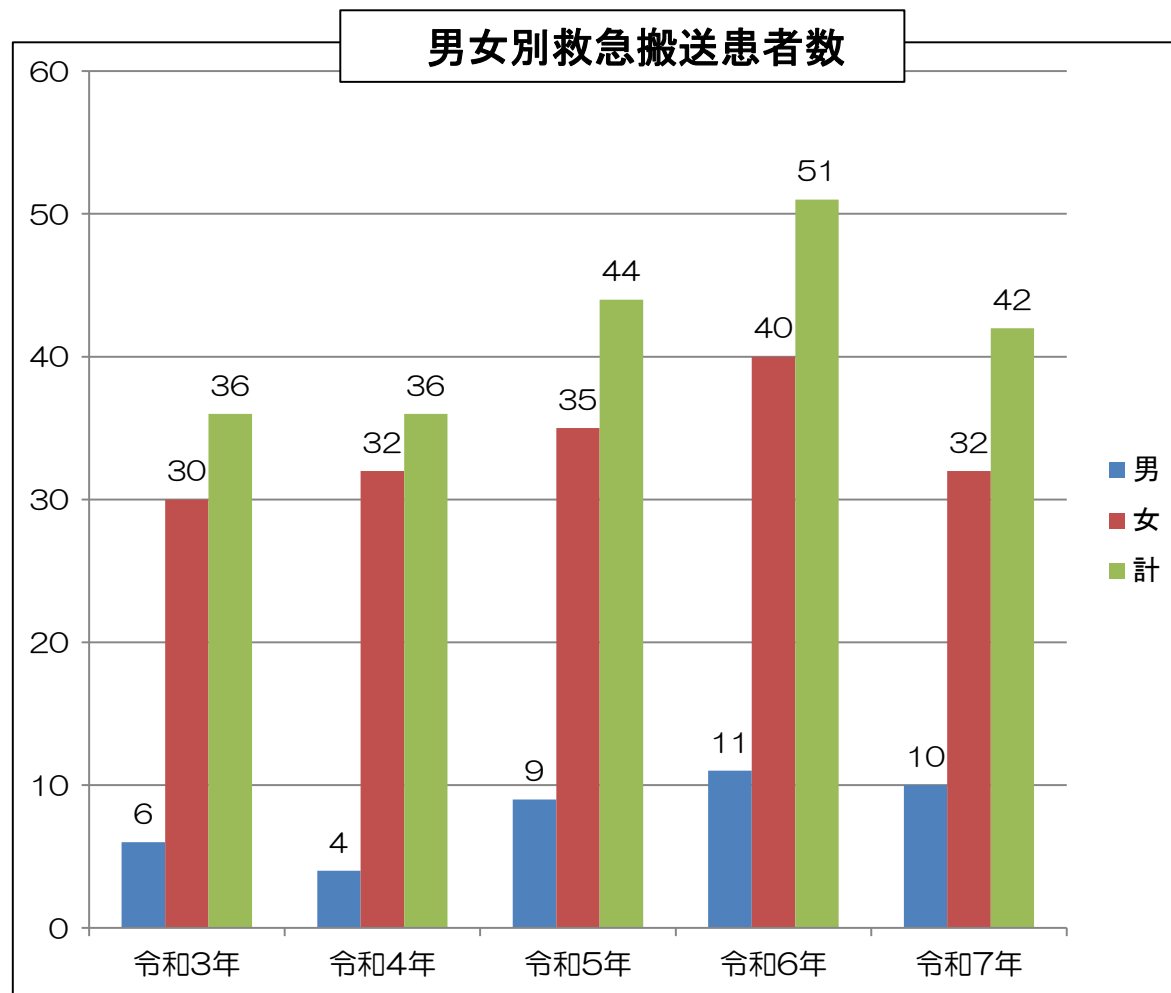


## 函館市における救急搬送者数（オーバードーズ疑い：対象 令和3～令和7年）

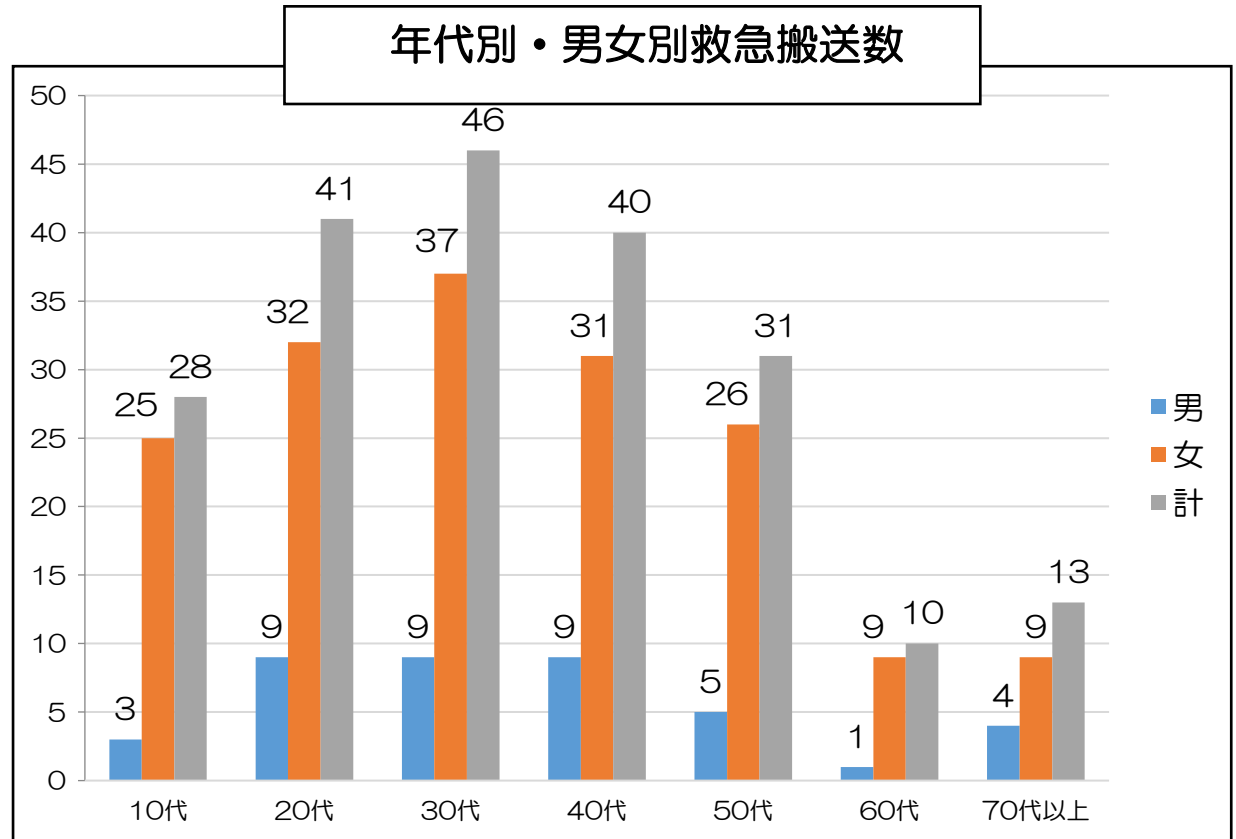
	男	女	計
令和3年	6	30	36
令和4年	4	32	36
令和5年	9	35	44
令和6年	11	40	51
令和7年	10	32	42
計	40	169	209



出典 函館市消防本部

## 函館市における救急搬送者数（オーバードーズ疑い：対象 令和3～令和7年）

		男	女	計
令和3年 ～ 令和7年	10代	3	25	28
	20代	9	32	41
	30代	9	37	46
	40代	9	31	40
	50代	5	26	31
	60代	1	9	10
	70代以上	4	9	13
		40	169	209



出典 函館市消防本部

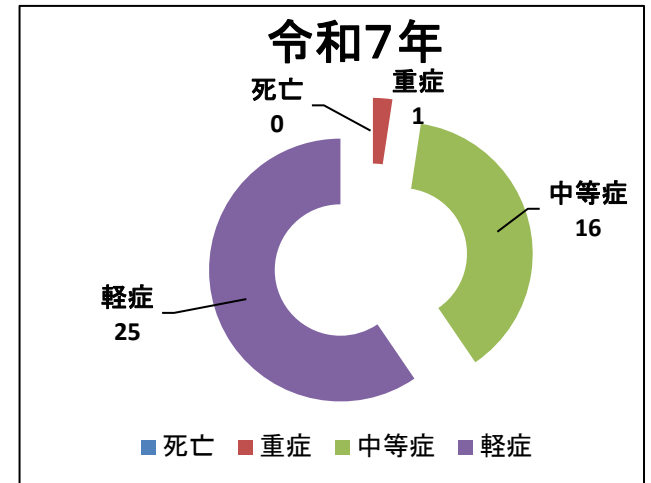
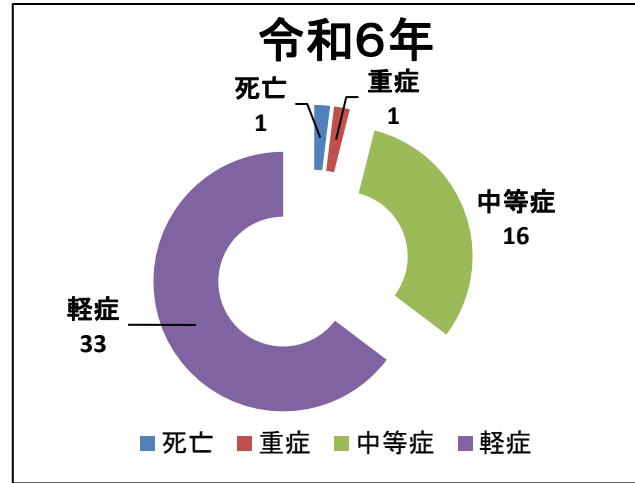
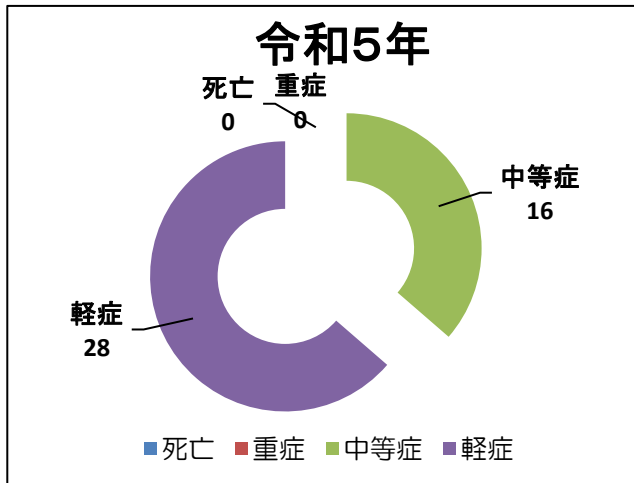
## 函館市における救急搬送者数（オーバードーズ疑い:対象令和5～令和7年）

程度別	死亡	重症	中等症	軽症
44	0	0	16	28

程度別	死亡	重症	中等症	軽症
51	1	1	16	33

程度別	死亡	重症	中等症	軽症
42	0	1	16	25

### 程度別救急搬送患者数



出典 函館市消防本部



出典 函館市ホームページ 医療的ケアが必要なお子さんと家族のための支援ガイドブック

コラム 4 長期付き添い入院の実態

お子さんの退院前には、長期の付き添い入院が必要になる場合があります。医療的ケアやお世話をしながら子どもと24時間一緒に生活に慣れることが主な目的ですが、緊張の連続で夜も眠れず、昼間は治療の付き添いや病院関係者の対応などに忙しいため、睡眠不足になりがちです。食事についても病院食は付添人には提供されないのでコンビニ食が続いたり、入浴の時間も希望通りには確保できない場合もあるので、肉体的にも精神的にも過酷な日々が続きます。

付添人が少しでも休息の時間を確保するため、また退院までに習得すべきことや日程の確認のためにも、1週間や1ヶ月単位でスケジュール表を作成して関係者間で共有するなど、病院側と患者側がお互いこまめにコミュニケーションをとることが重要となります。

体験談

子ども用のサークルベッド(シングルサイズ)に呼吸器をつけた子どもと一緒に寝るのは狭いし、自分が呼吸器にぶつかったらと思うとゆっくり眠れませんでした。付き添い入院が長引く場合ママだけの付き添いは限界があります。家族みんなの協力が必要です。



災害対策



1) 緊急時に受け入れてもらえる病院や施設の確認

医療的ケアが必要なお子さんは、様々な医療機器を使用しており、長時間の停電や断水は生命の危機に直結します。自宅に損害がなければ、まずは在宅での避難が第一選択肢として考えられます。災害の際、どこに行けば人の手を借りられるか、電源を確保できるか、どの病院や施設で受け入れてもらえるのか、等事前に確認しておくといでしょう。

災害発生時の避難の流れ



医療的ケアが必要なお子さんの多くは、電源確保等の観点から③避難所への避難が必要になります。マンションの場合は災害時にエレベータは止まることがほとんどです。普段から近所の方とコミュニケーションをとり、避難の際に助けを得られるようにしておくことをお勧めします。

2) 要支援者の申し出

函館市では、高齢者や障がい者などのうち、災害時の避難に支援を必要とする方について、名簿や避難計画を作成して、町会などに避難支援をお願いしています。支援を必要とする方は市の災害対策課へご相談ください。

3) 電源と備蓄の確保

手動や足ふみ式の吸引器をはじめ、栄養や薬を注入するボトルやチューブ、吸引カテテル、紙おむつ等日常的なケアに必要な物品、非常用電源、水、薬剤、衛生材料、食料等の量を十分に確保して災害に備えることができれば理想的です。沢山の医療機器が必要なお子さんの場合は電源の確保が大きな課題となります。マンションの場合は予備電源の有無を確認しておくといでしょう。



医療的ケア児等の停電時の電源確保に関するまとめ資料 (作成:医療法人桜生会)

